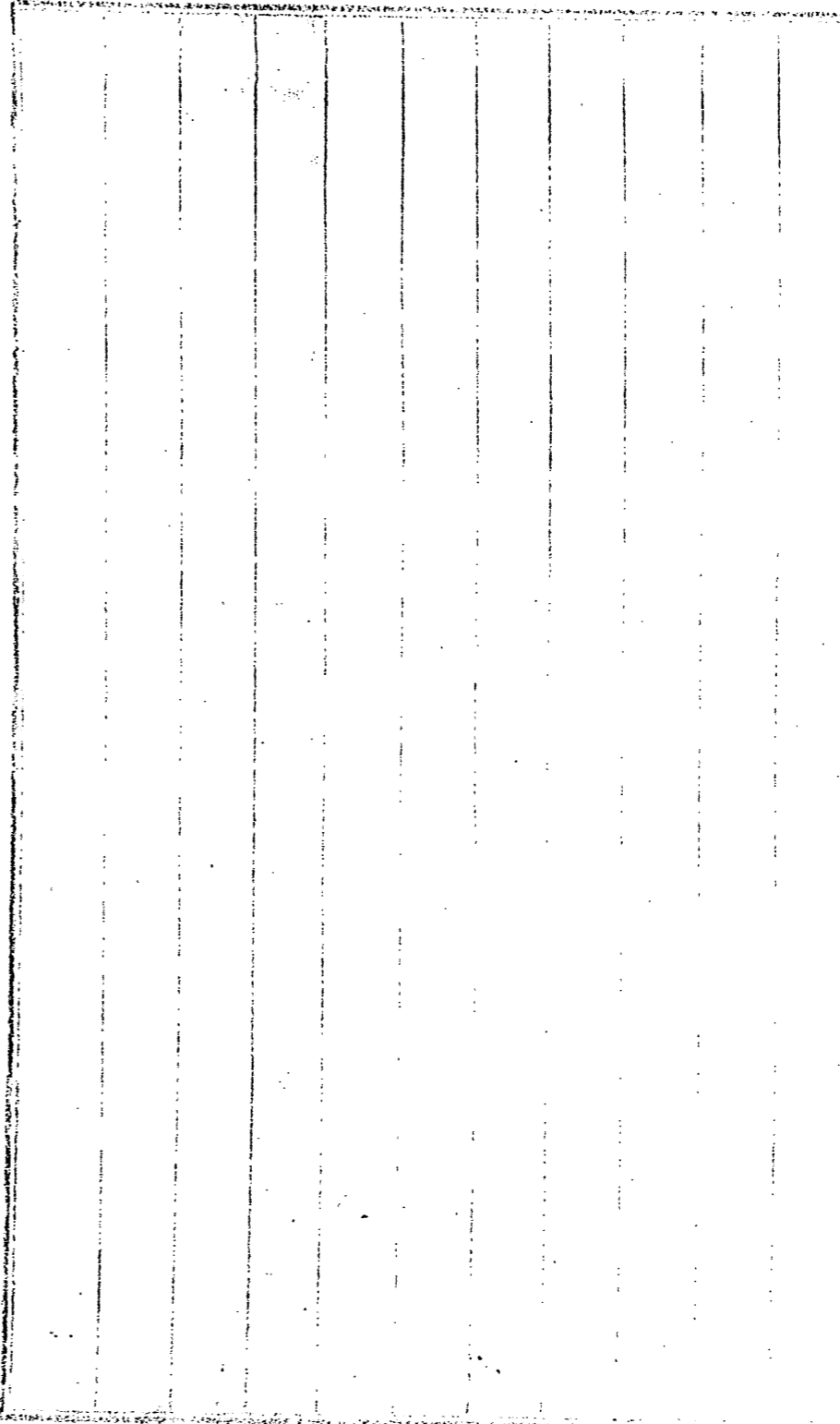





モノナルカ故ニ決定ノ文辭ヲ用ヒス本案未文
ノ法文ヲ以テ之ヲ提出ヤントス



明治二十七年一月二十九日

内閣總理大臣 青木

法制局長官 

外務大臣 力	大蔵大臣 	海軍大臣 五	文部大臣 家	逓信大臣 市
内務大臣	陸軍大臣 石	司法大臣	農務大臣 	

別紙内務大臣請議兜番取締規則制定
ノ件ヲ案スルニ右ハ粗暴過激ノ輩動
モスレハ兜番ヲ濫用シ威嚇殺傷ヲ為ス
ノ虞アリ之レ畢竟兜番取締法不充分ナ

ルニ起因スルヲ以テ其ノ際之レカ形締法
ヲ設ケントスルニ在ルモノナレハ請議ノ
通閣議決定相成可然ト認ム

追テ從來兇器取締ノ方法ハ帶刀禁止令
アリテ該令ハ明治九年太政官布告第三
十八号ヲ以テ發布セラレ且該令ヲ犯シ
タルモノハ其ノ力ヲ取上クヘキ明文アリ
又他ノ一方ニ於テ保安條例第五條ハ
銃器短銃火薬刀劍仕込杖ノ類ノ攜帶ヲ
禁スルコトヲ得ヘキ場合ヲ規定セリ而

テ右太政官布告ト云ヒ保安條例ト云ヒ
今日ニ於テハ之ヲ法律ト見做サ、ルヲ
得ス則チ兇器攜帶ノコトハ從來法律ヲ
以テ定メタルモノナレハ今ニシテ勅令
ヲ以テ其ノ攜帶ヲ禁スルトキハ命令ヲ
以テ法律ヲ變更スルノ嫌アリ依テ別紙
内務大臣請議勅令案モ亦法律ヲ以テ
定メラルヘキモノト思考ス則チ本件ハ
憲法第八條ニ依リ緊急勅令トシテ發布
セラレ然ルヘシ但發布前樞密院ニ依リ

詢相成ルハキモノト認ム

勅令案

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ
諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ我器
取締規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年月日

内閣總理大臣

逓信大臣

海軍大臣

内務大臣

陸軍大臣

農商務大臣

外務大臣

大藏大臣

文部大臣

司法大臣

我器取締規則

別紙修正ノ通

我器取締規則

第一條 以規則、於我器ト稱スルハ
刀劍銃器並他人ヲ殺傷スルキ目的ヲ有
スル器具ヲ云フ

第二條 我器ハ道路其ノ他公ノ場所ニ於
テ携帶スルヲ禁ス

第三條 林某、他我器ニテテナル器具ニ
付込シ又ハ假裝シテ我器ト其ヲ携帶
及販賣ヲ禁ス

第四條 護身ノ為メ我器ノ携帶ヲ必要ト

スル情状アル者ハ其ノ我器ノ種類ヲ記
載シ現住地地方長官警視總府ニ我器携
帶ノ許可ヲ出願スルコトヲ得但急迫ノ
場合ニ於テハ所在地地方長官警視總府
ニ出願スルコトヲ得
地方長官警視總府ハ其ノ出願ノ理由相
當ニシテ且ツ濫用ノ虞ナシト認ムルト
キハ一人一箇ニ限り六箇月以内一定ノ
期限ヲ附シテ特ニ我器ノ携帯ヲ許可ス
ルコトヲ得但第~~三~~條掲~~ル~~ル我器ハ其

ノ限ニ在ラズ

本條ノ許可ハ明治九年布告第三十八號
ノ規程ニ抵触スルコトヲ得ス
地方長官警視總府前項ノ許可ヲ與フル
トキハ手数料トシテ金一圓ヲ徴收スヘ

第五條四 前條ノ許可ヲ得タル者ハ其ノ我

器ヲ携帶スル場合ニ於テ何時ニテモ警
察官ノ求メニ應ジ許可證ヲ示スヘ直
ニ之ヲ示スコト能ハサル場合ニ於テハ

之ヲ示ス迄警察官ニ於テ其ノ武器ヲ領
置スルコトヲ得

地方長官警視總監ハ何時ニテモ前條ノ
許可ヲ取消スコトヲ得

第五條 地方長官警視總監ハ必要ノ場合
ニ於テ管内全部若クハ一部ニ對シ府縣

令若クハ廳令ヲ以テ武器運搬ニ關ス
ル制限ヲ設ケ又ハ一時其ノ運搬ヲ停止

スルコトヲ得

第七條 法律命令ニ依リ特ニ武器ノ使用

若クハ携帯ヲ許可セラレタルモノ及官

ノ許可ヲ經タル射的遊技等ニ使用スル

キ武器ハ第六條ノ場合ノ外其ノ規則ニ

依ルノ限ニ在ラス

第八條 武器ニアラサル器具及第九條ニ

依リ携帯スル武器ト雖其ノ携帯ノ情況

ニ依リ人ヲ殺傷シ又ハ脅迫スル為ニ用

サレバ其ノ虞アリト警察官ニ於テ認めルト

キハ其ノ携帯ヲ差止め若クハ必要ノ時

日間之ヲ領置スルコトヲ得

我器又ハ我器ニアラサルモノ、運搬ト雖其ノ情况ニ依リ警察官ニ於テ前項ノ虞アリト認ムルトキハ前項ニ依リ處分スルコトヲ得

第九條 第二條及第三條ヲ犯シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ノ犯罪ニ係ルモノハ其ノ我器ヲ没收ス

明治九年布告第三十八號ニ違背シシ

ル者ハ其ノ布告ニ依テ處分スルノ外仍前項ノ罰ニ處ス

第十條 職務ニ依リ若シハ成規ノ服制ニ基キテ我器ヲ携帯スル者ハ此ノ規則ニ依ルノ限ニ在ラス

第十一條 此ノ規則ハ北海道及沖繩縣ニ施行セス

第十二條 此ノ規則ヲ施行スル為ノ必要ナル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

第十三條 此ノ規則ハ即日ヨリ施行ス

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

太政官布告

明治三十八年四月
三十八号

自今大禮服用迄、軍人及警察官吏等制
 規アル服着用ノ節ヲ除ク、外帶刀被禁候
 條此旨布告候事

参照

第五條

保安條例

明治二十年四月
勅令第六十七号

人心ノ動亂ニ由リ又ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀
 ヲ為ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル
 地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル
 場合ニ於テ其ハ地方ニ限リ期限ヲ定メ左ノ
 各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得
 一凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハス及
 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ豫メ

警察官ノ許可ヲ經サル者ハ總テ之ヲ禁
スル事

二新同紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ
檢閲ヲ經スレテ發行スルヲ禁スル事

三特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル
者ヲ除ク外銃器短銃火薬刀劍仕込杖ノ
類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事

四旅人ノ出入ヲ檢査スル旅券ノ制ヲ設クル
事

附録第四号

秘甲第一〇號

別紙兎器取締規則制定ノ件
閣議提出又

明治廿七年一月廿二日

内務大臣伯爵井上馨



内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

甲七

秘甲第一〇號

兇器取締規則制定ノ件

豆

近來政熱漸少盛ナルニ從ヒ

言論集會出版等ノ穩和手段

ニ依ラズ動モスレハ兇器ヲ

用ヒ暴行威嚇以テ其目的ヲ

達セシトスル者アリ故ニ曩

日ニ豫戒令ヲ發シテ其危害

ヲ未然ニ防遏スルノ目的十

リシモ未タ兇器取締ノ制十

キヲ以テ疎暴過激ノ輩兇器

ヲ用ヒ秩序ヲ紊亂スル事跡

往々ニアリ殊ニ議負選舉ノ

内務省

場合ニ於テハ兇器ヲ濫用シ
威嚇殺傷ニ至ルノ虞アリ而
シテ其原因ヲ探究スルニ全
ク兇器取締法不充分ナルニ
依テスンハアテス是本則ノ
制定今日ニ必要止ムヘカラ
サル所以ナリ依テ別紙兇器
取締規則ヲ具シ茲ニ閣議ヲ
請フ

明治廿七年一月廿二日

内務大臣伯爵井上馨



勅令案

朕兇器取締規則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム

御名御璽

年月日

内閣總理大臣
内務大臣

勅令第 部

兇器取締規則

第一條 兇器に携り帶スルハカラス但此規則ニ於テ
兇器ト稱スルハ人ヲ傷ムル為メニ使用スル器具ヲ
云ヒ携り帶スル何等ノ方法ヲ以テスルニ係ラス使用
ノ目的ヲ以テ所持者ヲ附随スルモノヲ包含ス

第二條 兇器トシテ林ニ仕込ニ着ク他ノ方法ニ
依リ其兇器タルコトヲ隠蔽シタル器具ニ其携り
帶及販賣ヲ禁ス

第三條 第一條ニ記載セシ目的一ク有ル器具ニ非
スト雖モ其携り帶ノ情况ニ依リ警察官ニ於テ
人ヲ傷ケ又ハ強迫スル為メニ用テテ賣リト認メ
先トキニ其器具ノ携り帶ヲ禁止スルコトヲ得

第四條 危險急迫ト認ムルキ状況アル場合ニ於テ警察官ハ兇器又ハ第三條ニ該當スル器具ヲ携帶スルモノヲ制止シ必要ノ時日間其兇器又ハ器具ヲ警察署若クハ警察分署ニ領置セシムルコトヲ得

前項ノ情况アル場合ニ於テ第七條ニ依リ携帶ヲ許可スルル器具ト雖モ尚ホ本條ニ依リ廢却スルコトヲ得

第五條 地方長官東京府ニ於テハ警視總監ニ依リヲ保持スル為メ官下全部若クハ一部ニ對シ府縣令若クハ警察令ヲ以テ兇器運搬ノ制限ヲ設クルコトヲ得但從來勅令規則尙存令等ヲ以テ既ニ規定セタル事項ニ抵触スルコトヲ得ス

第六條 職務ニ依リ若クハ成規ノ服制ニ基キテ携帶スルキ我器ハ此規則ニ依リ限ニ非ス他ノ規則ニ依リ携帶ヲ許サレタル器具射的狩獵ノ用ニ供スル器具及ヒ其他警察官ノ許可ヲ得タル器具ニシテ遊戯所等ニ於テ使用スルキモノノ類ハ第七條若クハ第四條ニ該當スル場合ヲ除ク外此規則ニ依リ限ニ非ス

第七條 地方長官東京府ニ於テハ警視總監ニ依リノ為メ重要ト認ムルル場合ニ限リ此規則第一條若クハ第二條ニ該當スルモノト雖モ其器具ノ一定ノ期限ヲ付シテ特ニ其携帶ヲ許可スルコトヲ得

本條ノ許可ヲ得タルモノニ其兇器ヲ携帶スル

毎、許可證ヲ保セテ携行帶スルニ

地方長官東洋府發視總監三何時ニテモ本條

ノ許可ヲ取消スルコトヲ得

第八條 第一條ヲ犯スルモノハ五拾圓以下ノ罰

金ニ處ス

第九條 第二條ヲ犯スル者ハ第三條若クハ

第四條ニ基キタル警察官ノ命令ニ違背スル者

者ハ百圓以下ノ罰金又ハ三月以下ノ輕禁錮ニ

處ス

第十條 第七條第二項ヲ犯スル者ハ拾圓以下ノ

罰金ニ處ス

第十一條 此規則ハ北海道及沖繩島ニ施行ス

第十二條 此規則ヲ施行スル者ハ必要ナル細則ハ

内務大臣之ヲ定ム

第十三條 此規則ハ明治何年何月ヲ施行ス

三ノ目録あり。此書あり。〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

皇朝通志卷之九

禮部通志卷之九

五經通志卷之九

子部通志卷之九

會通通志卷之九

文獻通志卷之九

海國通志卷之九

皇朝通志

卷之九

禮部通志

海軍大臣 伊藤 忠海

陸軍大臣 桂 小五郎

内務大臣 大 久 野 功 一

逓信大臣 野 村 浩 三

文部大臣 野 村 浩 三

司法大臣 小 野 清 一

明治二十七年四月十一日

内閣總理大臣

法制局長官 松 本 重 信

外務大臣

大藏大臣

海軍大臣

文部大臣

逓信大臣

内務大臣

陸軍大臣

司法大臣

農商務大臣

別紙内務大臣請議ノ件ハ近來政熱漸ク盛ナルニ從ヒ動モスレハ我器ヲ用キ暴行威嚇ノ所為ニ出ル者アリ是レ我器取締法ノ不充分ナルニ因ルモノナレハ此ノ際其ノ